

官僚は魔法使い。
そんな甘言を信じて
どうする？
身の破滅の第一歩は
お上を信じることから
始まる。



関知しない姿勢を執り続ける。

あつものに懲りないこの官尊民卑の国日本。

負債総額850兆円で国としての崩壊も懸念される状態で、当局はなんら抜本的施策もせぬまま、どこまで現状に甘んじて進む気か。こんな状況下で年金の崩壊がほぼ確実と、問題が浮上したにもかかわらず、何の抜本的施策も採られていない。改革とは掛け声だけで、社会保険庁の乱脈ぶりは旧態依然、目に余る。役人共の反省の色はまるでない。

こんな日本に住む限り、自分の老後は自力で防衛するしかない。妻や老いたる親と共にホームレスにならないために、自力で防衛に徹するしかないのだ。

いた。駅頭の警備、水源地の厳重管理、ライフラインの徹底。みな私が指摘した通りだ。だが国民保護と口先では毎日いう政府は自治体への財政備蓄に動かなかつた。だから新潟中越地震のとき、現地でいくら「食料を送れ」と打電しても、2日も救援ゼロ。そんな状態だった。

たけしの「TVタックル」でもこの本は再三取り上げられ、私も登場して備えのない日本には経済備蓄が何よりも大切だと説いた。だが年金を始め、国民救済の備蓄政策の機運はいまだ、起こっていない。

その後、私は悪法「少年法」を放置する法曹界・官僚を批判した『愚劣少年法』（中公）

① まず、公的支援に期 する心を棄てよ

Pensionable? No!

【大罪現況】私は防衛戦略家である。なまじな経済アナリストではない。とおりいっぺんの数字だけで算出する経済アナリストの言うことは、こと年金に関する限り、平和ぼけの学者発言だと思いなさい。彼らがやるのはたいてい一元的で、諸般の実情をつかまない計算ばかり。こんな甘い数字を信じていたらどえらいことになる。

一昨年、私は中央公論新社から『日朝、もし戦えば』という防衛警告小説を出した。石川要三元防衛庁長官が帯に、「これだけ見抜かれたらこわいな」と書いた。正直な発言だ。それで国のテロ防衛策は動